

組み上げられた高さ76メートルの足場



## 八〇トンの銅を使用した「自由の女神像」

ニューヨーク・マンハッタン  
の海を隔てて南に浮かぶリ  
バティ島に、あのニューヨーク  
を象徴する、いやアメリカを  
象徴する「自由の女神像」  
が立っている。この「自由の女  
神」が「銅製」なのを知る人  
は意外に少ない。

この像は、フランスの歴史  
家エドアルド・ド・ラボライエ  
がアメリカ独立戦争の際の

二国の協力とその後の友好  
関係の証として贈ることを  
考えたものである。一八七一  
年に彼を会長とする組織が  
つくられ、像の制作には若  
手彫刻家のフレデリック・オー  
ギュスト・バルソルデイがあた  
った。彼がパリ郊外のアトリ  
エで像の制作にとりかかった  
のは一八七四年のこと。自分  
の母親をモデルとし、四フィ

ートのブロックに彫刻した。  
最終的には総ブロック数が  
三〇〇を越え、費用も当初  
予定の二五万ドルをはるか  
に越え、四〇万ドルにふく  
れ上がった。

台座は当時ベドローズ島と  
呼ばれていた現在のリバティ  
島にリチャード・モリス・ハント  
の設計で急ピッチで建設された。

それでもフランスから分  
解して像を積み、ニューヨーク  
ク港に着いたときには、台  
座はまだ工事中であったと  
いう。銅を骨組みとし、花崗  
岩で仕上げられた台座に像

を載せるにあ  
たっては、フラン  
スの設計エンジ  
ニアであるギユ  
スタープ・エツフェ  
ル(エツフェル塔の  
設計者)が協力  
し、ついに一八八  
六年十月二十八  
日、除幕式が行  
われ、十六年が  
かりのプロジェク  
トが完了したの  
であった。

個の錬鉄板を  
使用した網状  
のもので、その  
外形は女神の  
像となつている。  
銅肌はU字形  
の約一五〇〇個  
の銅の鞍に取  
付けてある。こ  
れらの鞍は骨  
組みの三面に  
取付けられ、  
銅肌は銅でリベット止めされ  
ている。外装用の三百枚の銅  
板(厚さ二・五ミリ)は全部  
で八〇トンもある。



- 銅製の腐食
- トーチの劣化
- 王冠部分の崩壊
- トーチをかがけている部  
分の腐食
- 鉄製骨組の腐食

この評が、一〇〇年近くを  
経た一九八〇年代初頭、現  
実のものとなった。  
一九八一年七月からフラン  
スおよびアメリカ共同の調  
査団による点検が行われ、  
● 銅肌外面の錆の汚れ  
● 銅肌の腐食  
● トーチの劣化  
● 王冠部分の崩壊  
● トーチをかがけている部  
分の腐食  
● 鉄製骨組の腐食

などが指摘された。この腐  
食はガルバニック腐食(鉄の  
骨組みと銅肌の接触腐食)  
であり、港周辺という立地  
環境の中での暴露を考える  
と像表面の銅は優れた状  
態にあった。

この調査に基づき、骨組  
みを高合金のステンレス鋼へ  
取替修復が行われることと  
なる。工事で大きな問題と  
なったのは、像に接触するこ  
となく、外周を囲むように  
して作る七六メートルの足  
場の建設であった。これには  
アルミニウム押出材の使用  
でやっとなら、着工後二年  
以上にわたった修復工事は、  
一九八六年七月四日、「自由  
の女神」の百回目の誕生日  
に終了した。